

令和5年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
園芸部門

消費者の求める「皮まで食べられるレモン」に特別栽培で取り組む

○氏名又は名称 せとだエコレモングループ（代表 宮本 悟郎）

○所在地 広島県尾道市

○出品財 経営（レモン）

○受賞理由

・地域の概要

尾道市瀬戸田町は、広島県の東南部、尾道市と愛媛県今治市を結ぶ西瀬戸自動車道（愛称：瀬戸内しまなみ海道）の中央に位置し、生口島と高根島の2つの島からなる。年平均気温は15.9℃、年間降水量は1,100mm前後と温暖寡雨な瀬戸内特有の気候であり、レモン栽培に適した年平均気温15.5℃以上の条件を満たす。また、瀬戸内地域は風が弱く、強風により発生が助長される「かいよう病」の被害を回避する上でも好条件であることから、全国有数のレモン産地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

輸入自由化と寒波によりレモンの生産が激減した瀬戸田町では、消費者の安全・安心志向に応えることで産地の復興を図るべく、レモンの特別栽培に取り組み、平成20年に生産者全員が広島県特別栽培農産物の認証を取得し、せとだエコレモングループが結成された。本グループでは、特別栽培された「エコレモン」の安定出荷や販路の確保に努め、瀬戸田町は国内有数のレモン産地となっている。

・受賞者の特色

（1）特別栽培技術の確立

安定生産を基調として化学合成農薬・化学肥料の使用を低減した特別栽培に組織的に取り組み、独自の栽培基準や栽培管理手法を確立した。これにより、消費者の安全・安心志向に対応した「皮まで食べられるレモン」の安定供給を実現している。低温ハザードマップを活用し、収穫時期の寒波による被害を軽減する取組も進めている。

（2）安定的な販路確保と加工商品の開発

一般栽培に比べて加工仕向けの割合が高いため、食品メーカー等と連携して付加価値の高い商品を開発するとともに、量販店と連携した情報発信、周年出荷の取組、商標登録によるブランド力強化を図る等により販路の確保及び高価格での取引を実現することで、生産者が安心して特別栽培に取り組める環境を築いている。

・普及性と今後の発展方向

実需者ニーズに対応した生産・販売に取り組むとともに、スマート農業技術を利用した安定的な生産や地域資源を活用した特別栽培を行うことにより、持続性の高い経営と産地を確立し次世代に引き継いでいく。